



令和4年8月3日（水）

地域支援センターさくらぎセミナー

テーマ「愛着障がいを抱える子どもたちを支えるチーム作り
～支援者が一人でできること、チームでできること～」

講演の紹介

テーマから「愛着の問題」の理解と支援という講演内容でお話をいただきました。

初めにアタッチメント(愛着)とは何か、養育者の態度と4つのアタッチメント・スタイルについて子どもの様子の説明があり、発達障がいとの違いや生じる困難さが交差していること、発達障がいの中には、育てにくさから愛着の問題が併発することもあることを知ることができました。

愛着形成や二次的問題から生じる「生きづらさ」を抱える子どもの支援・配慮のポイントとして、①基本的な信頼関係を築くための時間的な余裕が必要なこと ②安全や安心の感覚を抱けるように我慢を強いることなく不安や恐怖についてオープンに話ができるように心がけること ③安全・安心を基礎に「支配—被支配」の関係ではなく「共にいる心地よさ」を共有する経験を積み重ねることなど事例を基に具体的に教えていただきました。

特に、「悲しい」「イライラする」といったネガティブな情動を調整するためには、情動の受け皿となる大人やクールダウンできる場所・時間が必要で、「利用できる大人」＝「安全基地」を拠り所に対人関係の成功体験を積み上げることが大切であること、支援者側も一人でなくネットワーク、チームワークが重要だということを学ばせていただきました。

植木田先生、ありがとうございました。



—参加者の感想より—

- ・お話を聞いている時に、何人もの子供たちの顔が浮かんで来て、もしかしたらあの子はAタイプかもしれない、発達障がいと併発しているかもしれないなどと考え、生徒理解にも繋がりました。
- ・愛着形成の不全と親の愛情不足は必ずしも関係がないことがよく分かりました。これから安易に子どもの情動の不安定さを親の問題だと決めつけることがないようにし、アタッチメント・スタイルの視点を忘れないようにしていきたいです。
- ・愛着の問題や二次的な問題への支援について、ネガティブ情動を調整する「受け皿」をチームで作る(確保し)対応していくことが重要であると感じました。
- ・関わりの難しいお子さんの支援に悩んでいたところ、久しぶりに植木田先生のお話をお聞きし、大切なことを再確認し、子どもたちと向き合う勇気をいただきました。

ご参加いただき、
ありがとうございました。

